

「学習の3段階理論」の「理解」とは — 「理解」とは何かを考える —

Q : 「学習の3段階理論」の第1段階である「理解」とは何ですか。

A : (1) 学習している内容が「うんなるほどとよくわかる」「腑に落ちる」「納得できる」ことが「理解」です。

(2) 岩波書店の広辞苑という国語辞典では、「物事の道理をさと知り知ること。意味をのみこむこと。物事がわかること。了解。」と、「理解」を「定義」しています。

(3) 学習に関して言えば、教科書や教材、問題文などに書かれ示されている内容や、学校や開倫塾はじめいろいろなところで先生方から教えて頂いたり、話し合われたりしている内容が「うんなるほど」と「よくわかる」ことが「理解」であると私は考えます。

(4) 「理解」は、自分一人で教科書や教材、問題集、ノートなどを「学習」する場合での「理解」と、授業中での「理解」の2つに分けて考えることができます。少しずつ説明しますので、あまり焦らないでお読み下さいね。

Q : 自分自身で「教科書」や「教材」、「問題集」などを「学習」し、そこに書かれ示されてある内容を「理解」するとき大切な「学習方法」は何ですか。

A : (1) 文字や図、表、数字などで示されている「教科書」や「教材」、「問題集」、「自分でつくったノート」を学習していて一番大切なことは、意味のよくわからないことばに出合ったら、ためらわず辞書を用いて調べることです。

(2) 辞書で調べた内容は、調べた「ことば」と「辞書」に書かれている意味をいっしょに科目別の「意味調べノート」に正確にメモし、記録しておくことです。

(3) メモし、記録した「ことば」とその「意味」は正確に覚え、自分のものとして用いることができるようにすることです。

(4) そのために一番役に立つ方法は、科目別の「意味調べノート」をいつも「1 ページ目」から繰り返し読み直すことです。

(5) 御参考までに、「ことばは力、ことばの力を伸ばそう」というタイトルで執筆した開倫塾ニュース 10 月発行号の原稿をこのあとに全文掲載いたしますので、是非ご精読下さい。

辞書の用い方を身に付け、学力を大幅に向上させよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：辞書の用い方を身に付けると、学力は向上するのですか。

A：(林明夫：以下省略)はい、向上すると考えます。特に、学習するときに辞書を用いていない人は、辞書の用い方を身に付ければ、今後飛躍的に学力が向上すると考えます。

成績のよい人の中には、自分の力を過信して辞書など不必要と考え、学習する際に辞書を用いない人が数多く存在します。そのような人が辞書の用い方を身に付ければ、今後も更に成績が向上すると確信します。

Q：どのように辞書を用いたらよいのですか。できるだけ具体的に、また、わかりやすく説明して下さい。

A：はい、わかりました。どのようにして辞書を用いるのか、その真髄^{しんずい}をお伝えします。よく読んで、そっくりそのまま実行して下さいね。やるべきことは9あります。

(1)まず第1に大切なことは、学習する際には必ず辞書を身近に置くことです。家庭、学校、開倫塾、図書館などで学習するときには、武士が刀を持ち歩くように、とにかく片時も辞書を手放さないことが大事です。

(2)紙の辞書、電子辞書のどちらがよいかというと、家で学習するときには紙の辞書を用い、家以外で学習するときには携帯に便利な電子辞書がよいかもしれませんね。ただし、電子辞書は高価ですので、無理をして買うことはありません。紙の辞書でも十分に役に立ちます。私は、学校に通っている間は紙の辞書を用いることをお勧めします。

(3)どのような辞書を手元に置いたらよいか。国語辞典と英和辞典の2つは、どんな科目を学習するときにも必ず身近に置いて下さいね。読み方のわからない漢字や漢字自体の意味を調べるのには、「漢和辞典」が役に立ちます。日本語の英語での言い表し方を知るには、「和英辞典」が役に立ちます。古文を学習するには、「古語辞典」がとても役に立ちます。

(4)少しずつでもよいですから、これらの辞典を自分の手で探し、自分の手元に置く努力をして下さい。学校の図書室や市・町の図書館には必ず辞書が置いてありますので、大いに利用して下さいね。古本屋に行けば、新品同様の辞書が安く買えますよ。

(5)学校や開倫塾の教科書や教材、テキストなどを「学習」していて、意味のよくわからない「ことば」があったら「あまり気持ちがよくない」、もっとはっきり言えば「気持ちが悪い」と考え、躊躇^{ちゅうちよ}することなく、ためらうことなく(英語で言うと、without hesitation、ウィズアウト・ヘジテーション)辞書を用いて、その意味を調べることです。

教科書などを書いてあることの中に、意味のよくわからない「ことば」があってもあまり気にしないという「学習」の仕方をしていると、書いてある内容がよく「理解」できずに、いつになっても学力は向上しませんからね。

(6)学校や開倫塾などの授業中に、先生のお話の中に意味のよくわからない「ことば」が出て

きたら、サッとメモをして、必ず辞書を用いて調べましょう。意味のわからない「ことば」をそのままにしておかないことが大事です。授業中も意味のわからない「ことば」が出てきたら「気持ちが悪い」と感じ、それらをメモし、授業中か授業後に辞書を用いて調べることが大事であると私は考えます。

(7)辞書を用いて調べた「ことば」は、その意味といっしょに「科目ごとの意味調べノート」にメモし、記録しておくことが極めて大切です。

何のために「科目ごとの意味調べノート」を作るのかよくお考え下さい。「科目ごとの意味調べノート」は、そのノートを毎日 1 ページ目から繰り返し読み直すことによって、「ことば」とその辞書に出ている意味をスミからスミまで正確に覚え、自分のものとするために作成するものです。

「ことば」とその意味を身に付ける、「定着」させるときにも声を出して読む「音読練習」と、書いて覚える「書き取り練習」はとても役に立つ学習方法ですよ。

(8)この「科目ごとの意味調べノート」は、皆様の一生に渡って役に立つ「宝物」となります。学校のすべての教科の教科書も一生役に立ちますので、学校を卒業しても決して処分しないで、折に触れて読み直して下さいね。お願いします。

(9)受験生の皆さんは、受験勉強中に学習した参考書や模擬試験の問題・解説文などの中で少しでも意味のわからない「ことば」に出合ったら、必ず辞書を用いてその意味を確認。「科目ごとの意味調べノート」にその「ことば」と意味をメモし、1 ページ目から毎日繰り返し学習して下さい。偏差値が短期間で急上昇します。これを続けると、偏差値が下がることが激減します。

*以上の(1)～(9)を確実に行って下さい。

Q：なぜ辞書を用いると学力が上がるのですか。

A：(1)～(9)を確実に行えば、「ことばの数」(語彙の数)が確実に増え、教科書や教材、テスト問題や解説書に書いてあることがよく「理解」できるようになるからです。

学校や開倫塾の授業中に先生方が教えて下さることの意味が「理解」できるようになるからです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「ことばは力」です。自分自身が使いこなせる「ことばの数」、「語彙の数」を増やすことが、学力向上の第一歩です。偏差値アップの第一歩です。

「ことば」の力を身に付ける最大の武器・道具が、様々な「辞書」です。様々な「辞書」の特徴と使用方法を十分に「理解」した上で、辞書を使いこなして、学力を急上昇させて下さい。

受験生は、試験当日、直前まで辞書を手放さず、「ことばの数」を 1 つでも多く増やして下さい。

よい辞書と「科目ごとの意味調べノート」は、皆様の一生の「宝物」となります。決して手放さないようにしましょう。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

— 2012 年 8 月 14 日記 —

Q：随分と長い文ですね。

A：（１）これには理由があります。辞書の用い方を身に付けた人は、現在の成績に関係なく、必ず学力が上昇し続けることは明確ですので、私としても力が入ります。

（２）現在は小学生・中学生であっても、開倫塾の塾生の皆様はほぼ全員が高校や大学に進学します。高校や大学に進学する前に辞書の用い方を身に付けておけば、より難しい学習をするときに役に立ちます。留学をしたり、大学院に進学したりしても、また、社会に出て仕事をするときも、社会的な活動をするときにも、家事をするときにも新しいことがどんどん出てきますので、一つ一つをコツコツと学び続けなければなりません。

（３）学習しなければならないことの大半は「ことば」により示されていますので、「ことば」の意味がよくわからないときはどうしたらよいのか。その第１番目の対応策として「辞書の用い方」を身に付けておくことは、学校での学習の上でも、また、社会や家庭での活動の上でも必要不可欠です。辞書を用いる力を身に付けることは、生きていく上で欠かせません。

Q：「辞書」を用いて「ことば」の意味を調べても、「教科書」や「教材」、「問題集」、「ノート」によくわからないことがあったらどうしたらよいですか。

A：（１）大変よい質問ですね。（It's a very nice question!）もしかしたら、「ことば」の辞書で調べた意味だけではよくわからないことのほうが多いかもしれませんね。

（２）そのようなときにこそ、教科書の説明を学校の先生の授業を聞くつもりで一語、一語ゆっくりとお読みになることをお勧めします。教材の詳しい説明も是非ゆっくりとお読み下さい。「問題集」の「解答・解説」のページを学校の先生の授業をお聞きするつもりで、ゆっくり、ゆっくりとお読み下さい。「ノート」も授業中の先生のお話を思い出しながら、一文字、一文字ゆっくりとお読み下さい。

（３）これらのすべてを学校の先生の授業を聞くような素直な心、謙虚さをもって一文字、一文字「うなるほど」と「よくわかる」、「理解」できるまで何回もゆっくり、ゆっくりとお読みになることがポイントです。

（４）それでもよくわからないときにはどうするか。学年別の「参考書」や科目別の「用語集」、科目別の「辞典」、最後は「百科事典」で調べることをお勧めします。

（５）調べた内容はそのままにしないで、「ノート」にメモし、記録しておくことも大切な学習の方法です。学年別の「参考書」や科目別の「用語集」はお小遣いを溜めて自分で買いましょう。新品でなく古本屋さんの中古でも十分に役に立ちますよ。学校の図書室や県・市・町立の図書館、大学の図書館にも辞書や百科事典は必ず備えられています。

（６）大学の図書館は、手続きをし、ルールを守りさえすれば誰でも利用できます。ルールを守りさえすれば、開館時間から閉館時間まで一日中学習することができます。学校の授業のない日などは、HP で開館時間をよく調べた上で、大学の図書館を積極的に利用することをお勧めします。

Q：意味のよくわからない「ことば」を辞書などを用いて調べるのは、予習のときですか。それとも、復習のときですか。

A：(1)これも素晴らしい質問ですね。(It's a very nice question, too!)このような質問が出てくることを、私は待っていました。

(2)辞書などを用いてよくわからないことばを調べるのは、授業前の予習のときも大切です。同じように、授業後の復習のときも大切です。もっと言えば、授業中も大切です。

(3)授業前に予習をするときも、授業中も、授業後に復習をするときも、学習をするときにはいつも意味のよくわからない「ことば」があったらその瞬間にパッパッパッと辞書を用いて調べること、そのことばと意味を「意味調べノート」にメモをすることが大切だと考えます。

Q：ところで、少し伺います。塾長は、予習は何のためにするとお考えですか。

A：(1)これはまた素晴らしい質問ですね。私が「予習」の意味を知ったのは、大学を卒業して数年以上経ってからでした。東京大学法学部で民法を教えておられた星野英一教授の「民法概論Ⅰ」というテキストと、東京大学法学部の「民法Ⅰ」の授業の速記録^{あわ}を併せて読んでいて、ハッと気づきました。

(2)私の理解が正しければ、予習をする意味は「よくわからないことが何であるかをはっきりさせてから授業に出るため」というのが星野先生のお考えのような気がしました。

(3)その日の授業範囲について、「教科書」や「教材」、「問題集」などを^{あらかじめ}予め自分の力で学習する。わからない「ことば」があれば、「辞書」を用いて調べ、その結果は「ノート」にメモする。辞書だけではよくわからない内容は、教科書や教材、問題集の解答・解説、その科目の学年別の参考書やその科目の用語集、その科目の事典、百科事典などで調べ尽くし、その結果はノートに記録しておく。予習は、それでもよくわからないことは何かをはっきりさせて授業に臨むために行う。つまり、「予習」の意味は「よくわからないことをはっきりさせて授業に臨むこと」だと私は考えます。この予習についての私の考えは、星野先生の考えを参考にしたものです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)ここまで、私は、予習は何のために行うのかを皆様にご説明させて頂きました。このように、ものごとを行うときは、何のためにこのことを行うのか、その意味を自分の力で考えることが大切だと私は思います。

(2)私は、予習の意味を星野先生のお考えを参考にして、以上のように考えました。皆様はどのようにお考えになりますか。

(3)今回は少し長めになりましたね。最後まで読んで頂き、有難うございました。感謝します。

(4)次のページに、私が考えた辞書の使い方がスキルとしてどのレベルまで身に付いたかを自己診断できるセルフ・チェック表「開倫塾『辞書を用いることができる』の共通参照枠」を付けます。是非御活用下さい。

開倫塾「辞書を用いることができる」の共通参照枠

Kairin Common Framework for Using Dictionaries

レベル	能力(Can Do)の内容	チェック欄
C ₂	科目別の「意味調べノート」にメモした「ことば」とその「意味」をすべて正確に言えて、書くことができる。	
C ₁	科目別の「意味調べノート」をその科目を学習するときにはいつも 1 ページ目から読み直して復習することができる。	
B ₂	科目別の「意味調べノート」にメモした「ことば」と、辞書で調べたその「意味」を、音読練習と書き取り練習などを繰り返してよく身に付ける(定着する)ことができる。	
B ₁	辞書で意味を調べた「ことば」とその「意味」を、科目別の「意味調べノート」にメモすることができる。	
A ₂	教科書や教材、問題などを学習していて意味のよくわからない「ことば」があったら、「気持ちが悪い」と思い、その場で「国語辞典」や「英和辞典」を用いて意味を調べることができる。	
A ₁	意味のよくわからない「ことば」の意味を、「国語辞典」や「英和辞典」でパッパッと調べることができる。(辞書の引き方を身に付けている)	
A ₀	すべての科目を学習するときに、「国語辞典」や「英和辞典」を身近に置いておくことができる。	

＊「能力(Can Do)の内容」をよく読み、できているレベルのところはチェック欄に○印をつけましょう。

— 2012 年 8 月 15 日 開倫塾 塾長 林 明夫 作成 —